

## 富士紀行(101) 秋深まる須走宿！

(H13/10/16 記)

先日の日曜日(10/14),東海道400年祭須走宿実行委員会主催の須走登山道小富士からグランドキャニオン等の散策に家内と共に参加した。曹友会長以下10名程度がボランティアとして参加していた。富士駐屯地曹友会は、本須走宿の記念事業に5回参加、延べ支援人員は33名である。曹友会なくして本事業の成功はないと言う位に重要な役割を果たしていることは明らかである。御苦労様でした。地域に貢献する彼等の姿に惜しみない拍手を！

参加者は総勢約60名弱、過半は中年女性である。子育てを終えた最近の女性は元気だ。遠くは名古屋や静岡からの参加者もあり、天候にも恵まれ、快適な空地の境の散策となった。曹友会の会員や昨年度末退官した女性事務官、退官後須走に定住した小生の同期の奥さん等の沢山のボランティアを含む実行委員会の人々ともにバス2台に分乗して五合目に向かう。

総行程は約9.5km、小富士遊歩道～旧須走登山道～仁杉林道を、紅葉で目の保養をしつつ、自然の息吹を体一杯に感じつつ、各班毎の行動だ。途中、溶岩橋、小富士、グランドキャニオンを眺めつつ、クコア、梅モドキ、アケビ、ヤマブドウ、鳥の餌にもなるというミズキ属のヤマボウシの赤い実を採取したりのゆったりとしたウォーキングである。旧馬返しで昼食。配られた弁当と茸一杯の茸汁に舌鼓、はしたなくもお代わりをする。野外の食事は美味しいものだ。

我が班の森の案内人は、日本野鳥の会、東富士支部長のSさんである。色々なお話を伺いながらの数時間のウォーキングであった。

印象に残った話を幾つか紹介しよう。

### ① 小富士からの稜線下り、左右で景況に差異

稜線の北と南では景況が違う。風の強い南側は荒地であり、少しばかりのフジアザミが見られる程度であるが、北側斜面は、比較的気温も高く湿度も適当であるため、飛来した種子が根付き、海坊主のような草むらが点在している。このような状態から20年程度経つと低木の群生する一帯となり、それが成長して大きな林が出来る。

### ② 森林の輪廻・遷移

小富士遊歩道の林内や小富士の荒地に出るところなど、様相が色々と異なる。富士山の森林は、草原から陽樹林、陽樹林と陰樹林の混合林で、クライマックスは、陰樹林のシラビノ、ウラジロモミ、コメツガである。荒地だったところが何時しか自然林となると言う具合に、森林は輪廻し、遷移するものである。

### ③ 野鳥の宝庫なり！

富士山は、標高差が大きいので、日本の野鳥約630種のうち富士山や東麓では約150種の野鳥が棲息しており、正に野鳥の宝庫である。野鳥には夏鳥、冬鳥の他に迷鳥、漂鳥、留鳥があるそうだ。また、富士山に昭和35年に雷鳥を放ったところ、一時期繁殖はしたようだが、やはり近親交配の影響、アルプスと違う環境条件等のため今は絶滅したとのことである。林相により、鳥の種類が違う。ニギ林即ち雑木が密生しているよ

うな林には鳥は棲息しない。ワシ、タカ類はテリトリーを持ち、狩り場、調理場、そして営巣地を違えている。亜高山の野鳥は、平地や山地へ移動しているため、エナガ、ヒガラ、コゲラ、シジュウカラ、カケスやワシ、タカ類のトビ、ハイタカ等8種の野鳥が確認されている。

#### ④ 演習場の効用

富士山麓の東富士演習場は、富士山の自然保護という観点からもう少し評価されて良いのではないかと。演習場の中には、貴重な自然環境が沢山残されている。演習場は民間の人の立入が制限されているし、自衛隊も大事に使ってくれているので、有り難く思っている。もう少しそういう面での理解が深まればいいのだが・・・

#### ⑤ 壮大・遠大な森林の創造

宝永噴火による荒地から緑を復活させるために、フジアザミやバッコヤナギの植栽事業が行われているが、自然に優しく、自然の持つ生命力を人間が少し手助けするというような方法で富士山に緑を復活させるべきだ。時間は掛かるが、そうすることが本筋だとSさんは語った。もっと多くの人に自然のことを知って貰いたいし、まして、山では山のマナーをしっかり守って貰いたいとも。

#### ⑥ 御殿場に里山の復活を！

静岡県の鳥はサンコウチョウである。サンコウチョウはクロツグミ（御殿場市の鳥）と同様、人と共生出来る鳥であるが、その為には町中に彼等が棲息出来る里山が必要だ。残念ながら、御殿場は開発が進みすぎた。何とかしたい。

#### ⑦ ギャップを！

白樺とおぼしく木は実は白樺ではなく、ダケカンバであるという。白樺は、地面が一回焼けないと生えないものだ。林の中にギャップと呼ぶ所謂空間を作ることが、森のためにも鳥のためにも重要だ。最近ではそのようなギャップを意図的に作っている森もある。林道を造ることもギャップに相通ずる。

#### ⑧ 腐葉土を盗るな！

造園業者等が森の腐葉土を採取しているが、この腐葉土は森の輪廻のためにも非常に重要なものだ。富士山噴火による岩礫等があるため、樹木の根は深く張れずに横に延びざるを得ない。為に、一寸した風にも倒れてしまう。土を形成するには長い年月が必要だが、その為には腐葉土が必須だ。



小富士から下る参加者